

生活困窮者世帯支援



数は減少したものの、H29年度は140件。相談内容も「収入・生活費・仕事探し」が38%、「病気・障害・住まいさがし」などが21%占めています。また、貧困の連鎖が社会問題になっている中、生活困窮に陥っている「高校生の中退」防止対策もはじまりました。

子どもからの相談は現実的には難しく、学校や各部署での子どもの「SOS」を見逃さないよう、連携の強化を求めました。



介護予防の推進

H29年度から始まった「介護予防・日常生活支援総合事業」。一般介護予防事業「げんき活動コース」では、前年度比「2倍」の6,605名が参加されています。自主団体活動へも「栄養士・歯科衛生士・リハビリ職」など専門職を派遣するなど、支援を強化してきています。健康寿命を延ばすため

にも、お近くのコミセンなどで「げんき活動コース」（無料）が開催されています。皆さんも参加・体験してはいかがでしょうか。

自殺対策事業

自殺者の撲滅を目指し、「地域分析や対策経計画」が策定されています。帯広市の特徴は「20歳未満や60歳代の自殺死亡率が全国より高い」、特に「40歳以上で同居者がいる場合が多い」「40歳から50歳代の男性が多い」という分析結果となっています。一人で悩まないことが重要です。市では「ゲートキーパー」の養成も行っており、昨年度だけで456名の研修受講数と10倍に増加してきています。

悩んでいる人に「気づき・声かけ・見守る」このことで、自殺に追い込まれない状況もつくりだせます。「家族で、地域で、職場で」行えるよう、受講者のアフターフォローを求めました。

気 づ き

家族や仲間の変化に気づいて、声をかける。

傾 聴

本人の気持ちを尊重し、耳を傾ける。

つ な ぎ

早めに専門家に相談するよう促す。

見 守 り

温かく寄り添いながら、じっくりと見守る。